

学校教育目標	夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成
育成を目指す資質・能力	「自主」自己肯定感・自己有用感・「協働」他者とかかわる力・「創造」探究力

	<p>学力状況について</p> <p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>全国または大分県の正答率を下回っているのは次の領域である。国語では、9年生「言葉の特徴や使い方に関する事項」、6年生「書くこと」、5年生「我が国の言語文化に関する事項」、条件に従って書くことや自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていない。数学では9年生「図形」、空間における平面が1つに決まる条件の理解不足が見られ、他の学年では、関数の定義、伴って変わる2つの量の関係を式に表すことができていない。理科では、5年生「物質・エネルギー」「生命・地球」、基本的な内容の定着に課題が見られる。</p>	<p>学習状況について</p> <p>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</p> <p>質問紙によると、「テストで間違えた問題はやり直している」の問いの肯定率は、5年生は81.6%で全国より3.3pt高い。また8年生は85.6%で、全国より25.6pt高く、間違った所・分からないところをなくそうとする意識は学年が上がるにつれ高くなっている。しかし、苦手教科がはっきりしている児童生徒が多く、教科によって取組にムラがある傾向がある。また、「計画を立てて勉強をしている」の問いの肯定率は全国より高いものの、5年生66.7%、6年生72.5%、8年生60.6%、9年生65.4%と十分とはまだ言えない状況である。</p>
児童生徒の課題	<p>これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元末テスト・定期試験において、前期課程は60点以下を7%以下にする、後期課程は30点以下を12%以下にするという指標を掲げ、低学力層の引き上げに取り組んだ。各学年ともおおむね達成できた。 ・生徒指導の3機能を取り入れた授業を年間通して意識した。また、見通しをもって一日の活動に取り組むことができるように、朝の短学活で目標を決め、帰りの短学活で振り返りを行った。 ・総合的な学習の時間を中心に探究的なプロセスを意識した授業に取り組んだ。その結果、防災をテーマに異学年交流を行ったり(3年生と4年生)、地域への情報発信を行ったり(6年生)することができた。 	
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <p>生徒指導の三機能を生かした問題解決的な展開の授業の実践を行っている。具体的には、自己テーマ(「学びに向かう」)導入、全員が活動できる展開、学びを実感できる終末のどこに重きを置(か)をもち、仮説・検証を行っている。児童生徒に行った学校評価によると「授業は楽しいですか」、「授業は分かりやすいですか」の問いに対して肯定的評価の割合が85%、91%であった。そして、職員に行った学校評価によると、「あなたは『生徒指導の3機能』を意識した授業づくりに自己テーマをもって臨むことができますか」の問いに対して肯定的評価が93%であった。意識は高いと言えるが、校内研修における互見授業等の取組を通して内容をさらに充実させたい。</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <p>家庭学習の習慣化を目指して、発達の段階に応じて作成した「碩田学園家庭学習の手引き」を年度当初に配布し、活用している。そして既習内容の定着を図り、授業と連動した家庭学習の実施と継続した指導を行っている。また読書指導では、低学年から、読み聞かせを利用して個に応じた計画的かつ継続的な指導を実施している。その他に、1～6年えいごコミュニケーション・外国語と理科の専科授業等に取り組んでいる。また、昨年実施できなかった6年生への後期課程教員の乗り入れや8年生(英語)、9年生(数学)の習熟度授業、6年生の教科担任制を行っている。</p>	

学力に関する達成指標

単元末テスト又は定期試験における低学力層(前期課程60点、後期課程30点以下)をそれぞれ7%、12%以下にする

今後の具体的な取組	<p>【授業改善】</p> <p>〈授業改善のテーマ・重点〉</p> <p>(授業改善テーマ) 児童生徒の主体性を育む義務教育学校のあり方 (授業改善の重点) 生徒指導の3機能を活用した指導法の工夫</p>	<p>【家庭・地域との協働】</p>
	<p>〈取組内容〉</p> <p>授業改善の取組 ○生徒指導の3機能を生かした問題解決的な展開の授業実践○自己テーマ(「学びに向かう」)導入、全員が活動できる展開、学びを実感できる終末)をもち、仮説・検証の取組を行う○言語環境を整え、「言葉の力」が高まる授業づくりを目指す○学習サイクルの充実(スキルタイム・朝学習)+授業+家庭学習+α(補充学習等)○互見授業を活用した授業力向上○授業の5原則の徹底</p>	<p>〈家庭・地域の取組内容〉 (達成指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習習慣の肯定率80% ○家庭での対話・声かけ率100%
	<p>〈取組指標〉</p> <p>○生徒指導の3機能を生かした問題解決的な展開の授業実践 教職員アンケート92%以上○プレート(本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ・振り返り)を活用した授業展開 100%○ICTの活用を1単元に1回以上○毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施(2分前着席、私語なく集中、しっかり聞く、はっきり話す、自ら学ぶ)○家庭学習の習慣化を図る「碩田学園家庭学習の手引き」の活用 100%○互見授業実施計画に沿った互見授業実施・全員のフリー参観実施 1100%</p>	<p>〈家庭・地域の取組指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日、家庭で対話をする。○毎日、家庭学習について声かけや励ましをする。 ○年間3回以上、学校行事(授業参観等)に参加する。○地域で出会った子どもに、あいさつや声かけを行う。
	<p>〈検証指標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業が楽しい、分かりやすい」という児童生徒の肯定的評価93%以上にする。 ○「家庭でよく勉強していると思う」という保護者の肯定的評価を80%以上にする。 	<p>〈家庭・地域の検証指標〉</p> <p>家庭学習についてよくやっているという保護者の肯定的評価を80%以上</p>
	<p>【授業改善以外の学力向上の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○補充学習の実施・個に応じた指導・習熟度別の宿題(低学力層の底上げ) ○読書指導 ○少人数指導・習熟度別指導等の実施 ○学習サイクルの充実 	